



RI 会長テーマ

2014~2015 年度

大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会長 上野 哲

副会長 錦山 功

幹事 休石 正基



会長テーマ

ノーマライゼーションの

推進を

例会記録

12月第1週例会 2014年12月4日(木)

ソング : 君が代 ボックス : 27,000円 (報告者 志田成樹会員)

本日出席率 : 62.26% 前回修正後 77.78% (メキャップ 13名) (報告者 前野良夫会員)

★ 会長の時間 上野 哲会長



今日は久しぶりの池田さんの卓話です。

皆様ご承知の通り、納涼例会の時に「国土交通大臣表彰」を受賞されたことを報告しました。受賞後に、是非卓話をして頂きたいとのお願いをしておりましたが、大変ご

忙のところ今日の日となりました。

池田さんは御年 75 才、仕事の建築設計も、趣味のゴルフも現役ばりばりでございます。又ジャンケンではクラブNo.1の勝負つよさでございます。

仕事に、趣味に、勝負に 元気いっぱい、なんとも羨ましいかぎりでございます。

池田さんの生ごまに刺激され、以前読んだ本を思い出しました。

そこで今日は、上甲晃(じょうこう・あきら)氏の本、「歳をとるほどに志」から一部分を抜粋して皆さんにご紹介します。まず著者を簡単にご紹介します。

大阪生まれ・京都大学教育学部卒・松下電器産業(株)入社・松下政経塾塾頭・同副塾長執筆・講演、等巾広い活動をなさっておられる方でございます。いわば、松下幸之助に見出され、松下塾の運営に携わった人です。松下政経塾の輩出した、政治家や財界人が多数おられることは、皆さんご承知のことと思います。野田元総理大臣もその一人でございます。

札幌農学校のクラーク博士の有名な

Boy Is Be Ambitious (ボーイズ・ビー・アンビシャス)

青年よ、大志を抱け をもじって

The Old. Be Ambitious (オールド・ビー・アンビシャス)

高齢者こそ高い志を持って生きよう

人は、歳を増すごとに頑固でわがま々になるようだ、日本は高齢化社会になり、高齢者が頑固で、わがま々な生き方を、押し通していけば社会の重荷になり、国全体に悪影響を与えかねない。逆に、高齢者が目覚めて「残された人生、世のため人のために惜しげもなく力を差し出そう」と言った志の高い人が増えれば、国にとって大きな救いとなるでしょう。しかも、これは日本だけでなく中国を始めとするアジアの諸国のモデルとなりうることです。

では『志』とはなんでしょう。

第一に、「人生のテーマ」を持つこと。仕事のテーマではなく人生のテーマである。

テーマのない人生は、目的地のないままに動いている、標流舟である。

第二に、「生きる原理原則を持つこと。」

第三に、「言行一致。」

この三つがそろって、初めて、『志』といえる。

松下政経塾の小島直記氏が政治家になった前原誠司・玄葉光一郎・徳永永久志などに講座で話した内容で

あります。高齢者が『志』の高い、見事な生き方をすることによって、子供や孫はもとより、後に続く人達に、良い影響を与え、国を変えることができます。高齢者の自覚と『志』高い生き方によって、日本は見事に立ち直って行くのであります。

松下幸之助が政経塾をつくったのが 85 才の時、塾は 5 年制であり、一期生が卒業する時は 90 才になる。上甲氏は、入塾式はこの世でも、卒業式はあの世だろうと思っていた。

松下幸之助は「志が間違っていなければ、仮に明日死んでも必ず自分以上の熱心な人が引き続きやってくれるに違いない」と判断し、覚悟を決めた。

「老いの覚悟」とは

- 1、今日が人生の本番だということ
- 2、今日死んでもいいということ
- 3、自分の志が間違っていなければ、必ずあとを継いでくれる人がいるということ。

私は歳だから、やることはやったから、とか自分の人生の一区切りだとか、自分で、老いを認め、社会とのかかわりを避けるような行為は間違いである。

太平洋と日本海を桜のトンネルで結ぼうと決意した、旧国鉄バスの車掌で佐藤良二という人をご存知かと思えます。名古屋から金沢まで全長 260 キロ、5 万本の桜を植樹し、桜の街道を作る計画を立て、バスが走る道路沿いに仲間にも助けてもらいながら、2,000 本の桜の苗を黙々と植え続けた。だが志半ばで病に倒れ、47 才の短い生涯を終えた。彼は自分が夢に描いた「さくらの街道」の完成を見ることができなかったが、その夢は家族や同僚に引き継がれ、今も続いている。いま、春になれば沿道は桜満開・春爛漫と化し、人の心を癒してくれる。佐藤良二 3 才の時、母が 33 才でなくなった。子供 3 人の子育てした父は「人様の喜ぶことをせにゃならんや、ボロを着て社会に尽くせ」こういつて聞かせた。

皆さんは後世になにを残し、なにを植えますか？ 日本人の心の原点は、皆んなのためになるかどうか？「公の心」にあり又『志』にある。私たち高齢者が、心がけて行くべきことは、心美しい日本人として生きることであり、それが「老いて増々、志、すなわち、オールド・ビー・アンビシャス」の思いである。

じょうこうあきら
上 甲 晃

志ネットワーク代表・青年塾塾長・松下政経塾元塾頭

著書 志を教える・人生に無駄な経験などひとつもない・歳とるほどに志

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 ガバナーエレクト事務所より 2520 地区の世界大会参加企画書が届いています。
サンパウロ参加 7 日間コース 2015 年 6 月 4 日～10 日成田空港発着旅行代金 450,000 円 他 2 コース
詳細および申込書は事務局にあり。お申し出ください。
- 2 ロータリーの友事務所より 2013-14 年度 事業報告書が届いています。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

★ 錦山 功副会長

11 月 22 日（土）開催の築館 RC 創立 50 周年記念式典に参加時の報告

★ 熊谷雅也前会長

大阪鶴見 RC・東京田園調布 RC・八尾中央 RC 各位の支援を受け、みんなの震災学習テ

キ



スト「吉浜のつなみ石」が創刊でき吉浜教えの里プロジェクト活動の一助となると報告。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

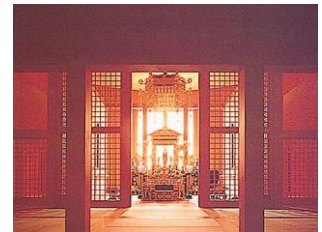
フリーアワー : 池田義弘会員卓話

しばらくぶりで卓話をします。本業の話という事でいくらかほっとしております。

私は、何事にも「遊び」というものが大事・必要だと思っています。建築の設計などもそうですが、事務所を開いて50年になろうとしておりますが、なかなか遊ばせてもらえません。

世界を舞台に活躍する建築家安藤忠雄氏は、独学で建築を学び1969年に安藤忠雄建築研究所を設立した人物です。この人の独創的な発想「遊び」にはびっくりさせられます。

彼が設計した淡路島にある「真言宗本福寺水御堂」は地下式寺院で、地上には蓮池が設けられ、その池の裂け目から階段通路を降りると御堂にたどり着く。御堂は、鮮やかな朱色一色に塗られとても幻想的で、内陣の背後の位置がちょうど真西向きに置かれているため、西日を受けさらに赤く燃え、列柱は赤い空間に光と影のコントラストを焼きつけていく、すばらしい光影が見られました。



話は変わって、ある時、屋台村でたまたま隣に座った人のTシャツに私が設計した、住田町の元大股小学校がプリントしてありました。その後、しばらくしてこれから紹介する手紙とTシャツが送られてきました。仕事を通して結ばれた、不思議な縁だと思います。紹介をさせて頂き、卓話とします。

手紙抜粋：

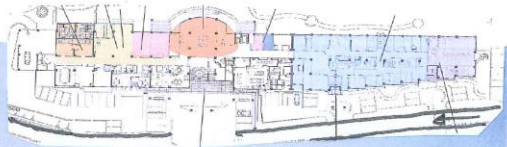
先日、鎮魂と祈りの1000Kmランをされた長崎の南さんから紹介いただきました。私は、東日本大震災の災害ボランティアを目的としたボランティアグループ「トモダチのトモダチ作戦」の代表をしております。南さんが着ていたTシャツは、住田基地を拠点に活動していたボランティア仲間で、神奈川県宮ヶ瀬湖24時間リレーマラソンに出場した時ユニホームとして作成したものです。(みんな住田基地に惚れたものどうしです) ボランティア活動のため住田基地に滞在して、グラウンドの一番奥にテントを張り寝起きしておりました。朝の澄んだ空気の中、山に囲まれたあのすばらしい建物を見ると、映画のワンシーンのように感じておりました。日中瓦礫に囲まれ、避難所では吐き出すように語られる様々な事を聞き、毎日泣きながら住田へ帰りました。そんな傷ついた心を本当に癒してくれたのがあのすばらしいロケーションに建つ、素晴らしい建物でした。外観も、中に入った時の木の造形。本当に素敵です。あの建物があの場所にあり、そこをボランティアのために無料で開放してくれた住田の人達があってこそ、長期滞在したり、何度もリピートして活動が出来たものと思っております。(前原会員 菅野会員朗読)



配布したものは、私が唯一遊ばせてもらい設計した猪苗代湖近くのリステルホテルの構内に建っている「介護老人保健施設 ケアテル猪苗代」で、月刊「近代建築」に掲載されたものです。

介護老人保健施設 ケアテル猪苗代

建築事務所
設計監理 池田哲野建築設計事務所
施工 佐藤工業株式会社



地下交流ホールではスタッフの総務式が催された。

■建築計画

この施設は、猪苗代湖畔のリゾート地にあり、スキーモーグル国際大会も開かれるリステルホテルパークに隣接している。

施設名称「ケアテル」は、「ケアのできるホテル」(Care=大助にする、お世話する)を施設の理想と掲げ、監主が命名したものである。

施設へのアプローチ

林道と川に挟まれた敷地の形状から平面計画は長方形にならないを得なかった。そこで周囲の雑木林の景観に建物を調和させつつ、通行せよリズム感を与えるため、外観を連続的に進行させる手法を選択した。

ホテル側から施設へ森林浴を楽しみながら歩いて行くと、木立の奥に建物が現れて来る。敷地中央にピロティ・廊下を配し、2階中央の大きく円形に突出すバルコニーで施設の華やかさを表現した。延床/土の厚み付きに十分な広さを与えたのは、景観を重視してのことである。

平面計画

メインエントランスから入ると、爽やかな南東風のホテル客層の演出を担った地域交流ホールに面する。ここは一画の窮乏に山椒の太木や川前山、猪苗代湖へそそぐ精進寺川のせせらぎを愛でられ、自筆折々の音や高をテラスから眺め込むことが出来る。

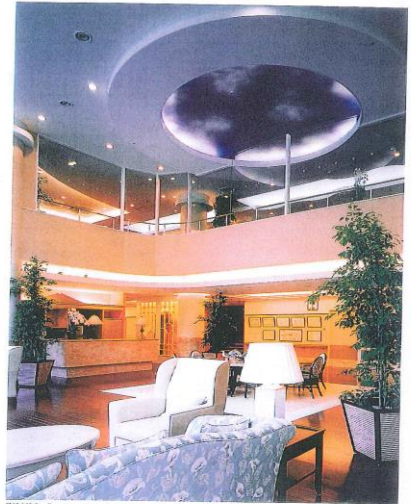
「利用者に優しい介護施設とは、職員が使いやすい建物でなければならない」を軸とした土壌と考えた。この施設の平面的特徴は、東西160mの狭長の建物に建物の中庭下を通したことである。施設の死角を少なくすることで、職員は、常時目線を配ることができ入居者の建物内動き・動作をチェックする機会も得られる。共用部分は常に生活の気配を感じとりながら、心行き交う空間でなければならない。

1階は、中央に玄関・主階段 エレベーター及び管理・調理室を置き、左手に通所リハビリテーション(40人)、右手には人工透析を備えた診療所(病床19人)を配した。

2階は、左手が60床の一般棟、右手が40床の認知症棟である。両方サービスステーションを取り囲むように、食堂・給食・ディレクションを配した。グループユニット10人および9人の位置も、サービスステーションを挟み管理動線を短くし職員が抱かれないようよりよい介護が提供出来るよう配慮している。

開所後地域交流ホールでは、コンサートや踊り、展覧会、時には結婚式なども催された。心算する予定外の利用に遇している。

(取材 鶴弘/池田 哲野建築設計事務所)



地域交流ホール



地下



- + 本日のメニュー*
- カレーライス
- ハンバーグ
- ハマグリ?の味噌汁